（特非）　ラムサール・ネットワーク日本

ラムサール条約と生物多様性条約の水田決議に基づく田んぼ10年プロジェクトの加速化とSDGsを組み入れた新しい水田目標の構築と活動の推進

活動地域　日本全域、国外

ひろげる助成 4年目
知識の提供・普及啓発

「田んぼ10年だより」の発行	3回
後継計画書発行	1冊
今年度計画の達成度	60％
目標達成度	80％

田んぼ2030プロジェクトキックオフ集会

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

生物多様性条約COP15が再び延期となり、生物多様性保全のポスト2020目標が決定できなかったため、田んぼの生物保全の目標との関係性も決定できなかった。

■工夫した点

議論途上のドラフト版ポスト2020目標と田んぼの生物多様性保全目標と対応させることで、2030年に向けての保全計画を作成し、国際目標決定後に修正することとした。

課　題

活動的な参加者を増やし、活動全体の活性化と、継続した事業としての基盤を強化する。その視点から人材育成、組織運営体制、将来ビジョンの重点項目の可視化を行う。

目　標

これまでの成果と国内外の生物多様性保全の議論を基にSDGsとCBD新戦略計画を組み入れた新・10年計画を策定・発足し、ポスト2020に備える。

活動内容と成果

生物多様性保全ポスト2020目標に向けた後継計画検討のため学習会「気候変動と水田」と民間稲作研究所へのヒアリングを実施した。「田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクト・水田目標2030」を策定し、計画書を発行。キックオフ集会を栃木県小山市で12月に開催。
動画「水田の生物多様性」を作成し、ウェブに掲載。農水、環境、国交省と水田決議円卓会議準備会を6回開催。「田んぼ10年だより」を3号刊行。

学習会（気候変動と田んぼ）参加者

全助成期間の活動を振り返って

愛知県、福井県、徳島県で地域交流会、東京での全国集会を開催し、オンライン参加も進めることによってプロジェクト参加者は300を越え、田んぼの生物多様性保全への全国的ネットワークの強化を進められた。しかし、水田地域の生物生息環境の劣化をとどめるまでには至らず、キックオフ集会を開催した「田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクト」の進展が必要である。

2019年地域交流会（中池見湿地）

〒110-0016
東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3F
電話：03-3834-6566
E-mail：info@ramnet-j.org
HP：http://www.ramnet-j.org/

今後の展望

助成を得て策定・スタートした「田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクト」において、各地で活動する団体・個人との生物多様性保全ポスト2020目標の実現を図る。2022年は参加者によるワークショップを開催し、具体的な行動内容を検討する。各地での実践活動、政府自治体の行政施策についての相互の情報共有と協働体制を構築する。国際条約会議の場などを活用して田んぼを持つ国同士の連携を図る。